

# 「台風 10 号関連豪雨災害」に対する 日赤徳島県支部の救護活動について

平成 16 年 7 月 31 日(土)、高知県西部に上陸した台風 10 号による集中豪雨により、徳島県南部地方を中心に甚大な被害が発生しました。この集中豪雨により、県内では、死者 2 名、重傷者 2 名、全半壊家屋(一部損壊含む)39 棟、床上・床下浸水 79 棟にも被害がのぼり、特に那賀郡上那賀町と木沢村では土砂崩れなどにより孤立世帯も多数発生し、日本赤十字社徳島県支部では迅速な救援・救護活動を展開しました。



土砂に押しつぶされた住宅（上那賀町）  
(徳島新聞社提供)



土砂崩れで流出した橋（木沢村）  
(徳島新聞社提供)

## ■被災者へ救援物資を配布

日本赤十字社徳島県支部では、災害発生と同時に職員や赤十字防災・救護奉仕団員が上那賀町と木沢村の各避難所に毛布や日用品セット、非常食などの救援物資を配付しました。

物資の積み下ろしには、被災地の地域赤十字奉仕団員らも積極的に協力しました。



## ■救援物資配布数(上那賀町・木沢村)

品名	毛布	日用品セット	タオル	石鹼	非常食 (アルファ米)	お見舞い品 セット	Tシャツ (赤十字有功会)
数量	570 枚	420 セット	2,310 枚	1,700 個	1,100 食	100 セット	180 枚

※日用品セット・・・歯ブラシやシャンプー等日常生活に必要な 28 種類の品を収納

※お見舞い品セット・・・みそ汁やパンなどの缶詰を中心とした非常食

※非常食(アルファ米)・・・炊かずに湯だけでご飯ができてあがる非常食

## ■赤十字独自の「こころのケア」と健康相談

避難所での集団生活が長期化の様相を見せる中、8月4日(水)からは日本赤十字社徳島県支部医療救護班と赤十字看護奉仕団員が上那賀町と木沢村に入り、慣れない避難生活で疲労のたまっていた被災者へのこころのケアと健康相談を実施しました。

大きなストレスにさらされ、心因性とみられる頭痛や不眠などを訴える被災者が多く、救護班員らは8月7日(土)までに379人に対して、「こころ」と「身体」の両面からのケアを行いました。



被災者の健康相談に応じる  
医療班看護師



こころのケアを行う看護奉仕団員

### こころのケアとは

被災者のストレスを軽減して苦痛を取り除く心理的支援プログラム、いわば「こころの救急法」です。

赤十字では阪神淡路大震災以降の災害時に、独自のプログラムによりこころのケアを行っています。

## ■赤十字アマチュア無線奉仕団も被災地へ

### ～情報収集と被害状況調査等で大活躍～

8月4日(水)から5日(木)にかけて、赤十字アマチュア無線奉仕団員6名が被災地に入り、現地の被害状況等をアマチュア無線から赤十字災害対策本部(日本赤十字社徳島県支部事務局内)へ随時報告しました。

団員は上那賀町役場に基地局を設置した後、木沢村役場で落雷被害により通信不能となっていた無線の復旧を行い、孤立地区との交信をはじめ、村内の各避難所と役場との交信を確保するなど、災害時の情報伝達手段の確保に努めました。



木沢村役場屋上でアンテナ交換を行う団員



上那賀町役場での基地局開設